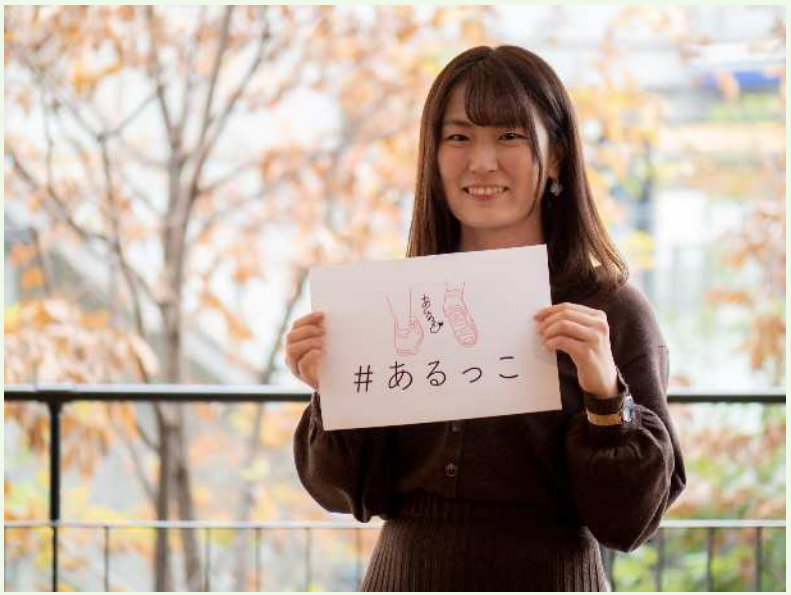
歩いてたのしいまちづくりのヒント

一般社団法人あるっこ　並木 有咲

自己紹介



なみき　ありさ

並木 有咲

一般社団法人あるっこ

・まち歩きイベント、ワークショップ開催

・SNSマガジンの更新、デザイン

団体紹介

法人名　　:一般社団法人あるっこ

代表理事　　:並木 有咲

運営メンバー　:6名（うち理事3名）

設立　　:2022年12月

（任意団体あるっこ:2020年7月開始）

事業内容　　:①まちあるきイベントの企画・運営

②歩きたくなる街づくりに関するアドバイス

③SNS・コミュニティ運営

目次

1. ウォーカブルシティとは？
ー定義や事例

2. ウォーカブルシティ実践の考え方
ー歩くを文化にする考え方と軸の置き方

3. 人視点で実践する、あるっこの取り組み
ーアプローチ方法と今後の展開

ウォーカブルシティとは？

ウォーカブルシティ

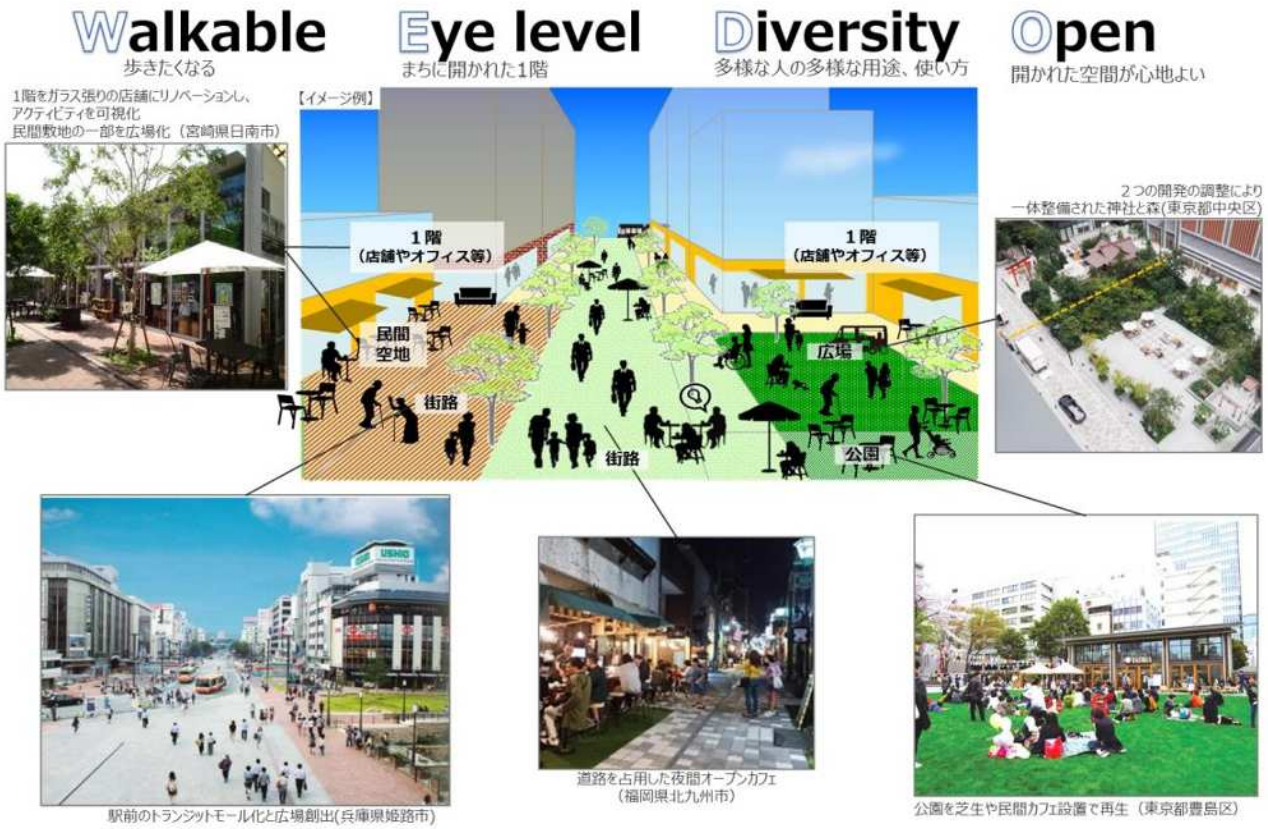
≒　まちなかを、人間中心の歩きたくなる空間にしましょう

キーワード

「歩いて楽しいまち」「居心地の良いまち」「歩いて暮らせるまち」

国土交通省が掲げているメッセージ

キーワード:「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくり



居心地が良く歩きたくなるまちなか

Walkable	歩きたくなる	居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたくなる、歩きたくなる。
Eye level	まちに開かれた１階	歩行者目線の１階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで中が見えると、人は歩いて楽しくなる。
Diversity	多様な人の多様な用途、使い方	多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。
Open	開かれた空間が心地良い	歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。

国土交通省HP引用

ウォーカブルなまちの進め方＜官民の連携＞

・**官民のパブリック空間**（街路、公園、広場、民間空地等）をウォーカブルな人中心の空間へ転換・先導し、**民間投資と共鳴しながら「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成**

・**多様な人々の出会い・交流を通じたイノベーションの創出**や人間中心の豊かな生活を実現し、 まちの魅力・磁力・国際競争力の向上が内外の***多様な人材、関係人口を更に惹きつける好循環*** が確立された都市を構築

官民連携で、計画を策定し、ビジョンを共有

公的な主体が、区域を設定

滞在快適性等向上区域

・補助金
・税金の減免
・融資
・法律の特例
・手続きの簡素化

国土交通省HP一部引用

ウォーカブルシティのポイント

居心地がよく（PLACE）歩きたくなる（LINK）魅力的なまちなかづくり

→リンク（交通）&プレイス（空間）を繋ぎ、まちの中の道を、ヒト中心に再構築

コンパクトでゆとりのあるまちづくり

→拡散した市街地を集約し、核となる「まちなか」のゆとりとにぎわいを取り戻すことが重要

官民連携の取り組みによる「まちなか」づくり

→官民のストックが集積する「まちなか」を、官民連携した取組による人間中心の空間へ

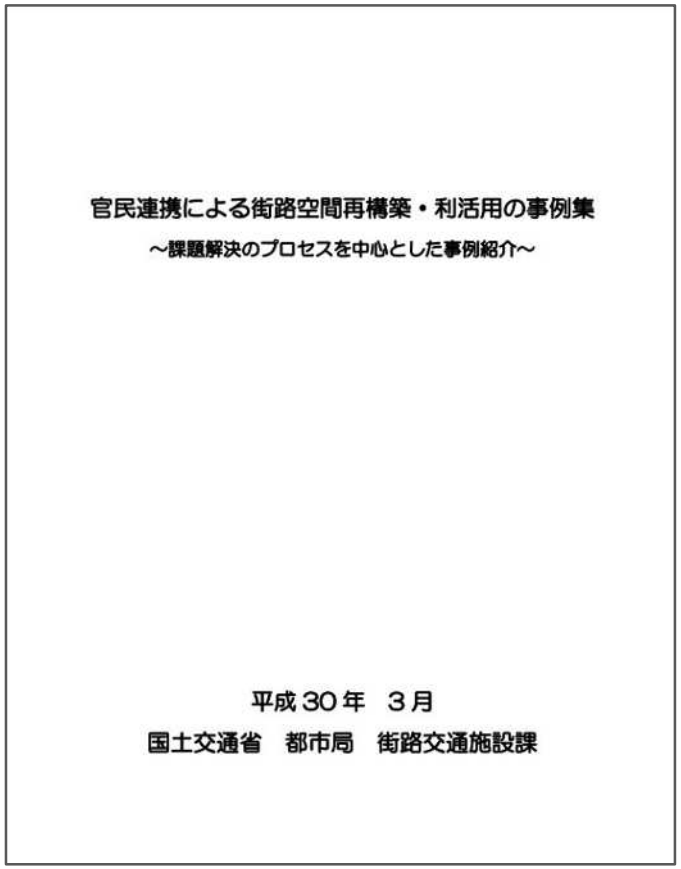
国土交通省HP一部引用

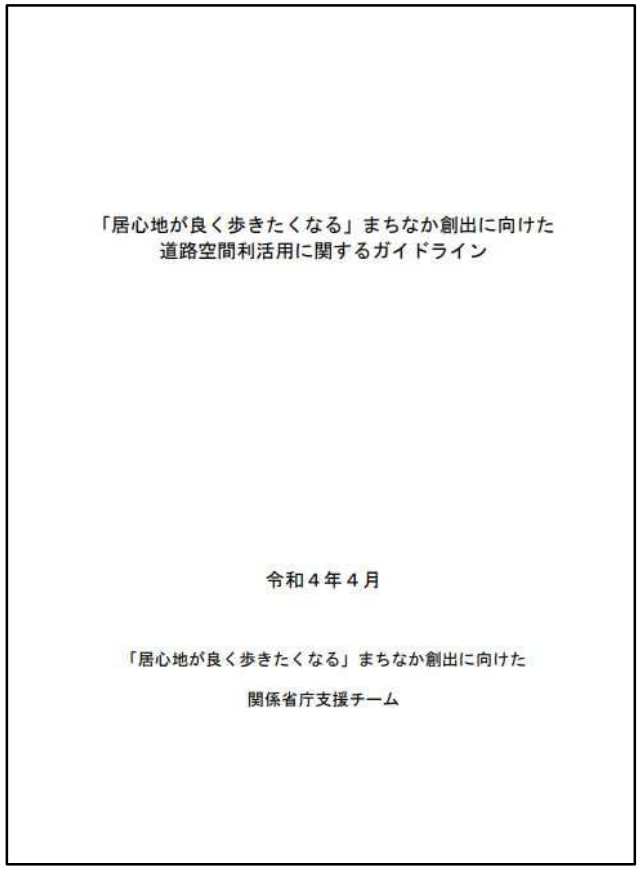
ウォーカブル推進都市

国土交通省HP引用

埼玉県
埼玉県
さいたま市
熊谷市
川口市
秩父市
所沢市
本庄市
春日部市
戸田市
朝霞市
志木市
和光市
久喜市
三郷市
蓮田市
幸手市
鶴ヶ島市
日高市
白岡市
美里町
上里町
宮代町
杉戸町

様々なガイドラインや事例集も発表されています





国土交通省HP引用

ウォーカブルの4つの要素

・利便性の高い歩行

様々な用途(商店、オフィス、学校など)が一箇所にまとまっている
ミクストユースな街はウォーカブルにとって魅力的。

・安全な歩行

歩行者が安全に歩ける歩道が必要。

・快適な歩行

建物だけを作るにではなく、街路樹の整備など、外空間も心地よく整備する必要がある。

・楽しい歩行

単一の意匠ではなく、ユニークな表情を持つまちは飽きない

ウォーカブルな都市の事例＜松山・花園町通り＞

片側3車線あった道路を片側1車線に減らし、歩行空間を拡大するとともに、沿道と統一的なデザイン整備を行うことで、街路空間を「居心地がよく歩きたくなる」ウォーカブルな空間へと再構築。

整備前

整備後

引用：国土交通省（ストリートデザインガイドライン）

ウォーカブルな都市の事例＜沼津市＞

2040年に向けてのプランニング

引用：中心市街地まちづくり戦略

官民両方が取り組みアプローチ

引用：沼津市、国土交通省

道路空間を活用する等、未来の街の姿を検証として見せる。

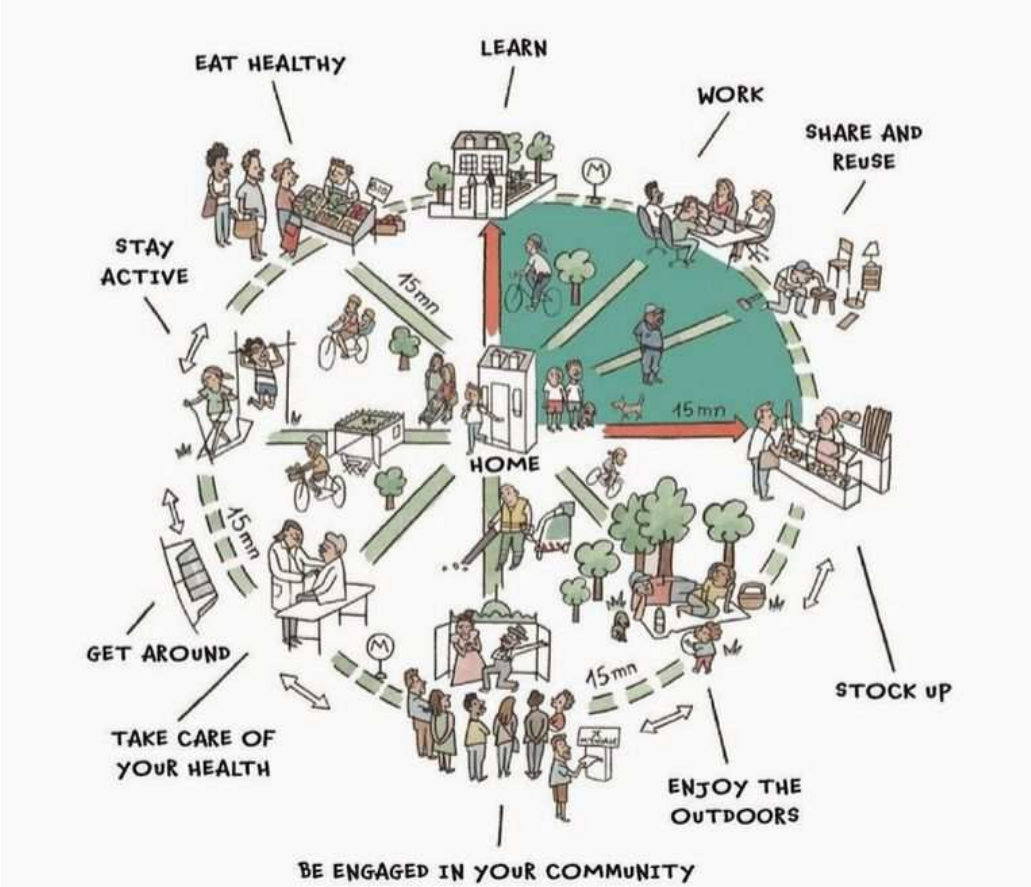
リビング空間のイメージ

リビング空間のイメージ

周辺店舗の連携イメージ

ウォーカブルな都市の事例＜パリ＞

自宅から徒歩または自転車で 15分以内で、日常生活におけるあらゆる機能（学校、職場、食料品店、医療機関、公園、スポーツ施設等）に行くことができる都市を目指している。

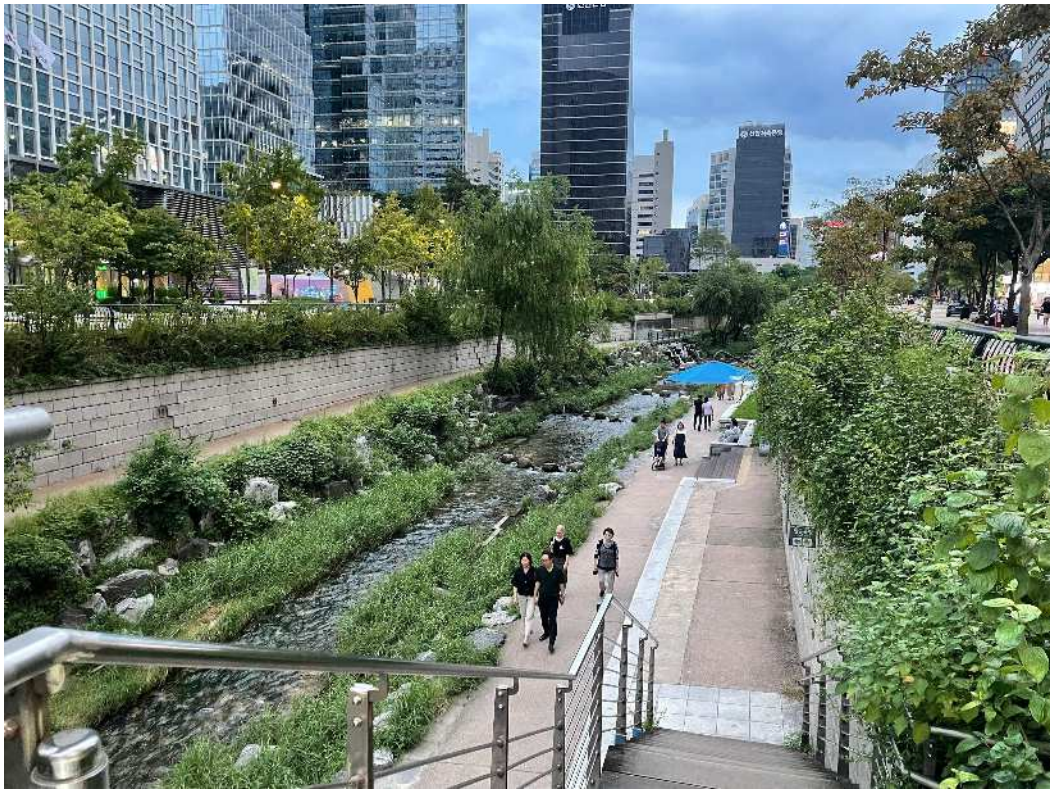


出典：パリ市 la ville du quart d'heure

チョンゲチョン

ウォーカブルな都市の事例＜ソウル・清渓川＞

経済成長期に川を覆うように清渓川高架道が建設されたが、「清渓川復元事業」として高速道路を撤廃し、川辺空間を再生し、市民憩いの場として生まれ変わった。



まちなかのパラソル

2. ウォーカブルシティ実践の考え方

一歩くを文化にする考え方と軸の置き方

ウォーカブルの推進の課題

- **ハード整備に取りかかることにハードルがある**
- **まず第一歩目として何をすれば良いかわからない**
- **歩いてもらう人側へのアプローチはどうしたらいいのか**
- 効果の測り方が難しい etc…

ウォーカブルシティが目指す先

どんな人も、居心地よくまちを回遊している状態

≒ まちを歩くことが文化となっている状態

実際に街に人の動きが文化として根付いている事例からアプローチ方法を考えてみる

まちに根付いている文化＜皇居ラン＞

- 東京オリンピック(1964年)のマラソン競技で、ランニングのブームが起こった
- 皇居から近い銀座のホステス40人か「皇居一周マラソン」大会を実施。
- ニュースを見た国立国会図書館の男性職員がマラソンクラブを設立し皇居ランを開始
- 皇居に多くのランナーが集まるようになり、皇居ランが一般化していった

皇居ランの発祥は半世以上前で、まちの近くにいた銀座のホステス。ランニングステーションやランナールール等の充実は後から付いてきた結果で、今ではさらに走りやすい環境へ。

参考:『なぜ皇居ランナーの大半が年収00万以上なのか』

まちに根付いている文化＜長崎さるく＞

- 2006年に開催する長崎万博として、まちあるき博覧会「長崎さるく」を開催決定
- 企画のプロデューサー、ガイド役を市民がになう構造へ＜まち活かし・ひと活かし＞
- まちに興味を持つ市民が増加、人材発掘、まちが綺麗になる等の効果
- 現在も長崎市におけるまちあるきのブランドとして、長崎さるくという概念があり、各団体の自主的な運営をして実施されている。

交流を受け入れる市民性を活かし、市民主体の仕組みとすることで、まち案内文化が今でも残っている。

参考：「長崎さるく」これからの進化に向けて

２つの事例から考える、ウォーカブルシティの大切な考え方

どんな人も、居心地よくまちを回遊している状態　≒ まちを歩くことが文化となっている状態
を作るためのアプローチ方法の一つとして、

①人が歩くということにおいて、まちに既にあるポテンシャルは何か？
まちの特徴の言語化

②最初に歩いて楽しいという考え方をアプローチしたい
/ できそうな人はどこの誰か

ウォーカブルシティが形成される流れ

ビジョンの作成

誰に歩いて欲しいか、まちらしい歩行空間の状態

歩く楽しさを知ってもらう人側への働きかけ

・まち歩きの楽しむ視点を伝える
・居心地が良い場づくり実験

共感者による取り組みの多角化

・民間企業の事業化
・歩き方の普及

結果を
随時反映

ハードの整備

・安全、利便の向上
・居心地がよい場
・町らしさのある歩行空間

ソフト・ハードの両面から、まち全体がウォーカブルへ。

３．人視点で実践する、あるっこの取り組み
ーアプローチ方法と今後の展開

ウォーカブルシティが形成される流れ

ビジョンの作成

誰に歩いて欲しいか、まちらしい歩行空間の状態

歩く楽しさを知ってもらう人側への働きかけ

・まち歩きの楽しむ視点を伝える
・居心地が良い場づくり実験

共感者による取り組みの多角化

・民間企業の事業化
・歩き方の普及

結果を
随時反映

ハードの整備

・安全、利便の向上
・居心地がよい場
・町らしさのある歩行空間

ソフト・ハードの両面から、まち全体がウォーカブルへ。

一般社団法人あるっこの取り組み

人に歩いて楽しいと感じる視点を伝える

歩く楽しさを感じる人がまちに増える

伸ばすべき点、課題が見えてくる

居心地が良く歩きたくなるまちなかへと近づいていく

一般社団法人あるっこの取り組み

「まちに、散歩文化をつくる」をビジョンに掲げ、街歩きを楽しむ多種多様な視点を伝える活動をしています。街歩きが好きな人を増やすことを軸に、健康増進やウォーカブルシティの推進に寄与する活動を展開しています。

① 計画策定

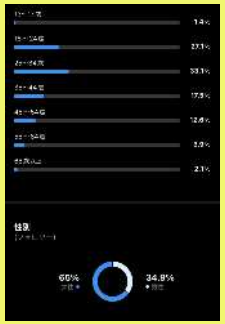
まちの特徴や、目指すゴールに合わせた目標を設定し、達成に向けた実行計画までを策定します。

② 企画立案・実施

ゲーム性が強いアクティビティ型、街歩き仲間をつくるコミュニティ型、まちの課題解決や知識を吸収する学び型をメインに目的に合わせて実施します。

③ データ収集・魅力の言語化

散歩を通して取得した写真データや参加者アンケートを分析し、歩きたくなるまちの要素や施策を言語化します。



④ コミュニティ・メディア運営

散歩企画の参加者や
新規参加者への広報として
コミュニティやメディア
の運営を実施いたします。

事例

アクティビティ型

■ イベント概要

開催日	:2022年6月、10月 、2023年10月
場所	:八重洲・日本橋・京橋
参加人数	:各回15名
参加年代	:10代～60代

■ 目的

エリアの資源である「古美術」や「老舗」の要素を盛り込み、参加者が街の魅力を知り、定期的にまちを訪れ、まちの魅力を発信するきっかけを作る。

■ 当日の流れ

- イベント概要説明、写真の撮り方レクチャー
- 街で自分の好きを見つけるをテーマに、アートや街の食に触れ写真をとりながら歩く。
- 参加者同士で、街歩きの感想を共有発信の仕方をレクチャー

事例

学び型

■ イベント概要

開催日	:2022年11月
場所	:埼玉県横瀬町
参加人数	:13名
参加年代	:20代～50代

■ 目的

「日本一歩きたくなる町横瀬」の実現に向けて、町外から来た人が歩いて楽しいと感じる要素を言語化し、施策に落とし込む。

■ 当日の流れ

- 概要説明
- 歩いて楽しいと思う点を見つける。町の活動で完成したハイキングコースでお弁当を食べる
- 町で見つけた歩いて楽しいポイントと、改善できそうな点を共有。役場の方からの町の施策共有。

事例

学び型

■ 目的

町の観光ガイド減少が課題となっているため、町で暮らす人目線のまち歩きガイドを育成する。

■ 当日の流れ

- まち歩きの視点の見つけ方やイベントの組み立て方をレクチャー
- 生活圏内を歩き，気づかなかった魅力やお気に入りなもの・コトを共有。
- 振り返りとして、人に紹介したいポイントを共有。

■ イベント概要

開催日	:2022年12月
場所	:長崎県対馬市
参加人数	:9名
参加年代	:40代～60代

事例

コミュニティ型

■ イベント概要

開催日	:2023年5月 11:00～16:30
場所	:流山市（3コース）
参加人数	:23名
参加年代	:0歳4か月～50代

■ 目的

まちで挑戦する若者の仲間をつくる一歩目として、流山で魅力的感じるもの・活動する人・食など、多角的な自分視点で流山を感じる。

■ 当日の流れ

- 概要説明、街に関する知識をレクチャー
- 事前アンケートで決めたテーマ別コースでエリアごとの特徴を感じながら歩く
- エリアの特徴を言語化し，まちで挑戦できそうなことを妄想する。

事例

コミュニティ型

■ イベント概要

開催日	:2023年3月14:00～16:30
場所	:みなとみらいエリア
参加人数	:19名（大学生補助3名）
参加年代	:10代～70代

■ 目的

最新のウェアラブルデバイスを体感してもらいながら、みなとみらいエリアに在住・在勤・在学の社会人・学生の積極的な交流を促す。

■ 当日の流れ

- イベント概要説明、デバイス使い方説明
- まちに関するミッションをクリアしながらコースを歩く
- 歩数のフィードバック、ミッションクリア数に応じてプレゼント

事例

コミュニティ型　**アクティビティ型**

■ イベント概要

開催日	:2023年10月14:00～17:00
場所	:保土ケ谷区内
参加人数	:12名
参加年代	:30代～50代

■ 目的

区在住・在勤限定参加として、地元を楽しむ視点を見つけながら、ヘルスケアに目を向ける。また、一緒に街歩きできる仲間を見つけ、まち歩きを継続的するキッカケをつくる。

■ 当日の流れ

- イベント概要説明、正しい歩き方を伝授
- まちやヘルスケアに関するミッションをクリアしながらコースを歩く
- まちで魅力的に感じたものをシェア

企画する上で意識している、また歩きたいと思うポイント

＜まちとの接点づくり＞ まちの暮らしに触れる

＜自分事化＞ 歩いて良いと思ったポイントを言語化する

＜新たな気づき＞ 他の人のまち歩きの視点に触れる

まとめ

ウォーカブルシティとは、
まちなかを人間中心の歩きたくなる空間にすること

ハード先行の整備ではなく、**このまちだからできるウォーカブルの姿**を言語化、**まず誰に届けるか**のビジョンを策定したうえで、場づくりの実験や**歩く楽しさを伝える活動**を同時に行う

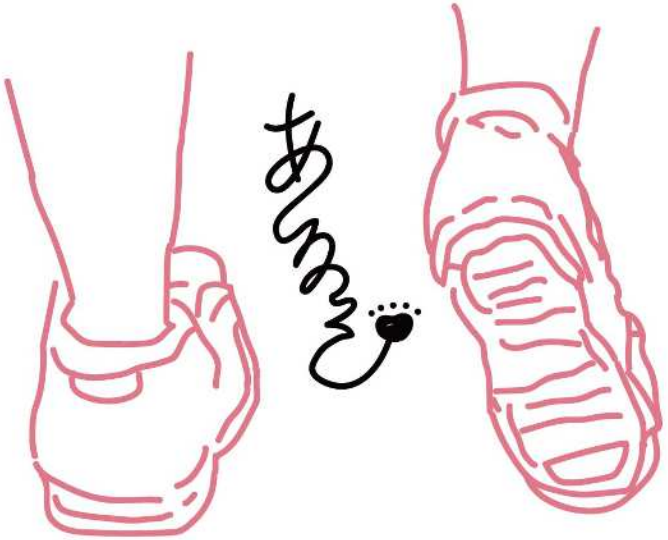
4. 最後に宣伝です

直近のイベント紹介

10/22　八重洲・日本橋・京橋エリア

歩いて楽しかったポイント、もっと〇〇があったら歩きたいというものをマップ化。

10/29　茨城県大洗町

大洗町を歩き、自分にとってウェルビーイングに感じたポイントを言語化

ご清聴ありがとうございました